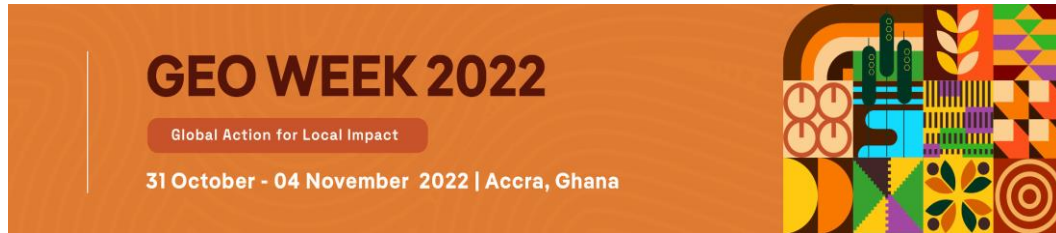


地球観測に関する政府間会合（GEO）WEEK 2022の開催結果等について

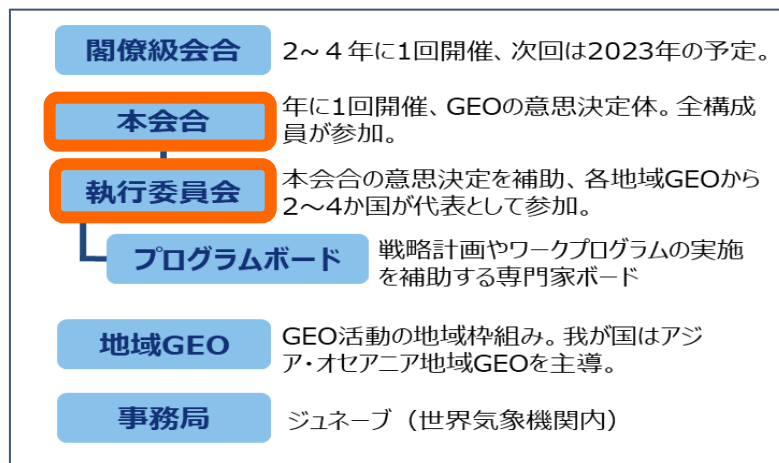
資料1



開催日程：10/31（月）～ 11/4（金）

開催場所：ガーナ アクラ国際会議場

- GEO WEEKは本会合、執行委員会、サイドイベント、展示等をあわせた1週間のイベント。（1回/年、11月頃に開催）
- 今年度は2019年振りに対面での開催となり、第18回本会合及び第59回執行委員会が開催。



GEOのガバナンス構造における本会合及び執行委員会の位置づけ

承認事項は**太字**で示す。

第18回本会合：Global Action for Impact

主な議題

- **GEOSS再評価専門家アドバイザリーグループの検討結果報告書**※
- **GEOワークプログラム2023-2025**
- ポスト2025（次期GEO戦略ミッション）に向けたコミュニティとの対話
- 地球観測と自然を基盤とした解決策（NbS）、国別適応計画（NAP）、及び海洋・気候・生物多様性の横断的活動についての優良事例等の報告
- **2021年会計監査報告並びに2023年GEO事務局予算**

第59回執行委員会

主な議題

- **GEOSS再評価専門家アドバイザリーグループの検討結果報告書**※
- **GEOワークプログラム2023-2025**
- ファイナンス等を通じたGEOのリソース拡大について
- ポスト2025（次期GEO戦略ミッション）に向けた検討の状況
- **2021年会計監査報告並びに2023年GEO事務局予算**

※ GEOSSプラットフォームを検討の対象とし、社会情勢・技術動向等を踏まえ、今後のGEOSSプラットフォームの方向性について、専門家アドバイザリーグループの見解を示す報告書。

第59回執行委員会（主な論点の議論結果）

GEOSS再評価専門家アドバイザリーグループ（EAG） 最終報告書承認

本グループにてGEOSSの再評価作業を実施。本報告を踏まえ執行委員会においてGEOSSポータルの方角性（在り方）について議論。

我が国からの発言

- 報告書には賛成するものの、GEOメンバー各国に対する影響や役割、コスト分析を含め、より詳細な議論が必要。今後のプロセスやスケジュールを明確化すべき。

執行委員会での議論結果

- EAGの検討結果（最終報告書）を承認しつつ、執行委員会としてGEOSSポータルの方角性を議論するために、更なる詳細分析（各オプションのコスト分析等含む）の必要性を認識。
- 本会合における各国等の意見を踏まえつつ、広くGEOコミュニティに対して意見招請を行い、透明かつ統合的なプロセスで今後の検討を進めていくことを確認。

今後の動き

- 11/25までGEOコミュニティからの意見を募集。
- その後GEO事務局にて各意見を整理しつつ、更なる検討作業のために必要な専門性・リソース等を特定し、次のステップに向けての推奨事項を作成し3月の執行委員会で議論。

ポスト2025（次期GEO戦略ミッション）に向けた検討状況

GEOの次期戦略ミッション検討に向けて、ポスト2025WG検討している具体的な論点（地球観測情報への公平なアクセスの拡大、GEOワークプログラムの機能拡大、GEOガバナンスの強化、新たなドナーの獲得、コミュニケーションやアドボカシーの強化）について議論。

我が国からの発言

- GEOの特徴である政府間枠組みの強みを生かすため、メンバー国目線での政策的・戦略的な戦略ミッションの策定を期待。また、次期戦略は現行計画を踏まえて検討されるべきであり、現行計画の達成度合いの分析が重要。
- Post-2025では、地域やコミュニティのバイラテラルな活動に着目することも重要。これらには政策決定に貢献し、GEOの価値提案を高める活動も多く、改めて地域に着目することが重要。

執行委員会での議論結果

- ポスト2025WGの検討作業に謝意を示しつつ、GEOの価値提案を高める活動へのフォーカスすることを強調。
- GEOSSポータルの方角性に係る議論とポスト2025の議論は切り離し、それぞれ並行して検討を進めることで合意。

今後の動き

- 11/25までGEOコミュニティからの意見を募集。
- その後ポスト2025WGにおいて各意見を整理し、検討作業を継続。

第18回本会合（概要）

アフリカのためのオペレーショナルなサービス

- 本セッションではアフリカでのオペレーショナルなサービスを提供している「デジタルアース・アフリカ」について、そのサービス等を優良事例として紹介。デジタルアース・アフリカは短期間（3年）のうちに、オペレーショナルなプログラム運用まで移行し、アフリカ大陸における意思決定等に係る情報提供を行っている。

自然を基盤とした解決策（NbS）のための地球観測

- 本セッションでは特に湿地帯（wetlands）に着目して、地球観測が気候変動の適応と緩和に貢献できるかという点について議論。多くの環境に係る多国間枠組みは土地被覆と生態系情報に依存しているものの、幅広いユーザ向けにカスタマイズ可能なツールやシステムの構築には至っていない。このようなシステムやサービス開発のため、地球観測がどのように貢献できるかについて議論。

ポスト2025に向けて

- 本セッションではコミュニケーションツール（Slido）を用いたインタラクティブな双方向性の議論を実施。ポスト2025に向けて、本会合参加者とGEOの価値提案や今後の方向性について意見交換。
- 参加者（メンバー国並びに参加機関）からはGEOへの期待や要望と共に、GEOポスト2025WGの中間報告書に対する意見が多く寄せられた。我が国からはGEOの特徴である政府間枠組みの強みを生かすため、メンバー国目線での政策的・戦略的な戦略ミッションの策定の必要性等について発言。
- メンバー国の中から各国からの正式なステートメントを表明する機会の必要性が指摘され、11/25まで各国・参加機関からのインプットを募集することとなった。

国別適応計画への貢献に向けて

- 本セッションでは、各国・国別適応計画（NAP）に貢献するGEOの活動（GEOGLOWS/GEOGLAM）をハイライトし、そのサービス等を優良事例として紹介。これらの活動では、各NAPの中で地球観測の成果を活用するための技術ガイダンス文書を作成し、気候変動の適応と緩和に貢献している。

海洋・気候・生物多様性の横断的活動

- 本セッションでは、気候変動と海洋生物多様性の関係性とその課題に対する地球観測の貢献可能性について議論。地球観測の活用により、国連気候変動枠組条約、国連生物多様性条約、及び国連海洋科学の10年といった各マנדートに横断的に対応することの重要性と可能性について議論。

第18回本会合（主な決定事項）

承認：GEOSS再評価専門家アドバイザリーグループ（EAG）の検討結果報告書

- 本セッションではコミュニケーションツール（Slido）を用いたインタラクティブな双方向性の議論を実施。
- 参加者（メンバー国並びに参加機関）からは「GEOSSは概念であり、プラットフォームの議論に矮小化されるべきではない」や「GEOSSが果たした役割等を踏まえ、GEOSSプラットフォームの更なる改善の検討が必要」といった意見が表明。

承認：2021年会計監査報告並びに2023年GEO事務局予算

承認：GEOワークプログラム 2023-2025

- 本セッションではDIASがGEOイニチアチブ※として継続承認。
- その他我が国が関係する活動（GEOGLOWS、EO4SGDs、GFOI、GEO-WETLANDS等）についてもGEOフラッグシップまたはイニチアチブとして継続承認。

※ GEOのワークプログラムはその活動の規模や達成度等に応じて、フラッグシップ、イニチアチブ、コミュニティ・アクティビティの3段階に分類。



GEO GROUP ON
EARTH OBSERVATIONS

GEO WORK PROGRAMME 2023-2025
SUMMARY DOCUMENT
VERSION 2 - SEPTEMBER 2022

